

「墨ぬり」英語教科書の実証的研究

An Investigation into the Demilitarization of Wartime English Language Textbooks

磯 辺 ゆかり , 江利川 春 雄

Yukari ISOBE , Haruo ERIKAWA

(和歌山大学大学院教育学研究科) (和歌山大学教育学部)

2005年10月4日受理

Abstract

The aim of this study is to investigate the expurgation of militarism and imperialism from the English textbooks *Eigo* and *Kotoka-Eigo* (published in 1944) conducted after the Japanese surrender in August 1945. This paper analyzes 11 inked-out copies of the English textbooks and especially focuses on 5 recently-found copies. These are prominent historical documents that offer us an insight into the reality of the drastic changes from the wartime militaristic education to the postwar democratic education. This study presents the details of methods and substance deleted from the teaching materials. The expurgated books show us the importance of subject matter in personality development of students.

1. はじめに

1945(昭和20)年の敗戦にともなう占領下で、教科書の戦時的な教材に削除・修正が施された。こうした「墨ぬり教科書」は、軍国主義教育から民主主義教育への転換を体現する歴史的遺産である。そのため、中村(1985)に代表される総合的な研究のみならず、国語(吉田2001)、数学(長崎2000)、理科(三石1990)、音楽(菅2002)などの教科別の研究も蓄積されつつある。

本稿では、現時点で発見できた英語の「墨ぬり」教科書11冊(中学校用8冊、高等女学校用2冊、国民学校高等科用1冊)を調査し、削除・修正の実態と特徴を明らかにしたい。

なお、「墨ぬり」英語教科書に関しては、中間報告的な江利川(1994a・1994c)を経て、江利川(1999)で6冊の調査・研究を行っている。それらを踏まえ、また紙幅の制約もあり、本稿では前稿の後に発見された5冊、つまり中学2年用4冊(表1のD・E・F・G本)および高等女学校2年用1冊(B本)の分析から得られた知見に比重を置き、よりトータルな考察を行いたい。

2. 戦時下の英語教科書と削除指令

2-1. 太平洋戦争期の英語教科書

アジア太平洋戦争期(1931~45)の英語教科書の変遷史に関しては磯辺・江利川(2005)で考察したので、本稿では「墨ぬり」の対象となった『英語』と『高等科英語』(ともに1944)の概略にとどめる。

太平洋戦争が勃発した1941(昭和16)年には小学校

が国民学校と改称され、その高等科(現在の中学1・2年の学齢)のために文部省著作の英語リーダー(全2巻)が刊行された。その巻1が半分ほどに圧縮され、1944(昭和19)年秋には『高等科英語』が出された。これには戦時的な教材はほとんど盛り込まれていなかったため、中村新三氏の所蔵本によれば、敗戦後の削除は「敵機tekki」「敵teki」の2語だけだった。

1944年の3~5月には、中学校と女学校の準国定教科書として『英語』(著作兼発行: 中等学校教科書株式会社; 図5)がともに2巻まで検定認可された。この教科書の編集の経緯および内容については星山(1983)、江利川(1994a・1994c)などに詳しく、学習状況については体験をもとにした黒澤(1999)がある。

『英語』はOral Methodにもとづく入門期指導、語彙選定、言語材料配列などの面で戦前の到達点を示している。その半面で、軍部の干渉や時局を反映して、題材面では大東亜共栄圏(植民地主義)、軍事、戦時的自覚、神社参拝、天皇崇拜を内容とする軍国主義的な課が2割ほど盛り込まれていた(江利川1994a)。これらが敗戦後に削除の対象となるのである。

2-2. 「墨ぬり」削除指令

教科書への「墨ぬり」は、文部省が占領軍の指示よりも前に発した「終戦ニ伴フ教科用図書取扱方ニ関スル件通牒」(1945年9月20日)に始まる(中村1985)。これには、「戦争終結ニ関スル詔書ノ御精神ニ鑑ミ適当ナラザル教材ニツキテハ左記ニ依リ全部或ハ部分的ニ削除シ又ハ取扱ニ慎重ヲ期スル等万全ノ注意ヲ払ハレ

度此段及通牒」とあり、主な削除対象は、①国体〔天皇制〕や軍備等を強調した教材、②戦意高揚に関する教材、③国際親善を妨げるおそれがある教材、④戦後の事態と遊離した教材、などであった。

この約1ヶ月後の10月22日には、GHQが教科書から一切の軍国主義と超国家主義を含んだ教材を除去することを指令し、翌1946年1月25日には国民学校の国語と算数の教科書に関する削除修正箇所の表が再通知されている。ただし英語教科書に関する統一的な削除指令は確認されていない。

3. 削除方法

1945年8月の敗戦とともに、戦時的な教材は削除された(図1～3、資料1・2)。いわゆる「墨ぬり」教科書と呼ばれたが、表1に示すように、実際の削除方法は多様であり、「墨ぬり」はその象徴的な呼称である。

合計11冊の「墨ぬり」英語教科書を分析した限りでは、削除方法は表1の6種類に大別できる。これらを複

合した形態も見られた。なお、削除方法の構成比は削除の分量を反映するものではない。「墨ぬり」や「棒引き」は削除方法の約6割を占めるものの、比較的少量の削除に用いられている。他方で、「切取り」や「貼合せ」は全体の1割ほどではあるが、削除の分量は数ページないし1課全体に及ぶ場合がほとんどである。

また、同一の削除箇所であっても、資料によって削除方法は多様である。たとえば中学2年用の第1課では5冊が全面削除されているが、そのうちB・C・G本の3冊が「切取り」、D本が「紙貼り」、E本が最初と最後のページのみ「紙貼り」で、内部は周辺6箇所を紙片で留めて「貼合せ」したものである。

広島県立三次中学校の2年生のときに『英語2』(G本)の削除を体験した松村幹男氏(広島大学名誉教授)によれば、1945年の秋か冬ごろに、授業中に英語教師の指示に従って不都合なページに墨をぬり、その部分を自宅で切り取って教師に提出したという(談話: 2005年10月1日)。

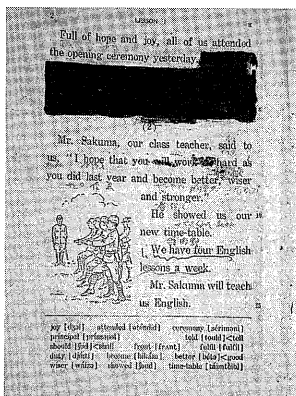


図1 「墨ぬり」の例
(中学2年用F本 第1課)

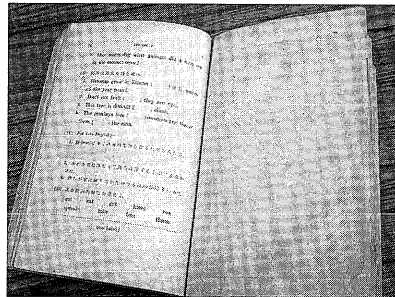


図2 「紙貼り」の例
(中学2年用D本 第21・22課)

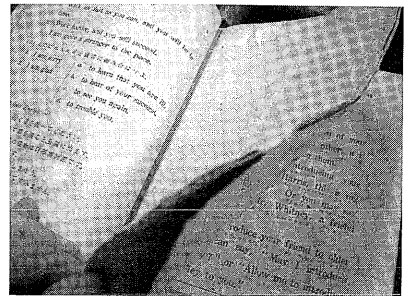


図3 「貼合せ」の例
(中学2年用D本 第11・12課)








表1 教科書別の削除方法一覧

テキスト	所蔵者	墨ぬり	棒引き	紙貼り	切取り	バツ付け	貼合せ	計
中学用1	江利川 春雄	36	5	0	1	13	0	55
中学用2A	吉村 徳蔵	13	0	6	0	1	3	23
中学用2B	江利川 春雄	13	9	0	6	0	0	28
中学用2C	愛知教育大	6	0	0	5	0	0	11
中学用2D	江利川 春雄	0	1	22	0	0	0	23
中学用2E	温故伝承館	21	25	26	0	0	5	77
中学用2F	温故伝承館	6	25	11	0	0	4	46
中学用2G	松村 幹男	0	0	0	5	0	0	5
女学校用2A	江利川 春雄	4	0	0	1	0	0	5
女学校用2B	江利川 春雄	2	1	0	0	0	1	4
高等科英語	中村 新三	0	2	0	0	0	0	2
計		101	68	65	18	14	13	279
構成比		36.2%	24.4%	23.3%	6.5%	5.0%	4.7%	100.0%

(註) 中学用『英語2』のA本は吉村道男氏が私立城北中学校で使用、C本は名古屋市の平松久氏が使用、E本は名手酒造の温故伝承館(和歌山県海南市)所蔵で、和歌山県立海南中学校で吉田敬氏が使用、G本は松村幹男氏が広島県立三次中学校で使用。高等女学校用『英語2』のA本は「埼玉県立川越高等女学校図書」の印があり、B本は「白高女二年」の大久保フサシが使用。

図4 削除方法の模式図

【凡例】削除・修正方法欄の記号については、次のとおりである。

	切取り：不都合部分をナイフ・カッター・はさみなどで切り取っている。
	貼合せ：糊で見開きのページを貼合せ、内部の不都合部分を見えないようにしている。
	紙貼り：不都合部分に紙を貼り付けている。
	墨ぬり：不都合部分に濃い墨をぬっている。棒状と面状のものがある。
	棒引き：不都合部分に鉛筆または色鉛筆で棒状に線を引いている。多くの場合、下の文字が見える。
	バツ付け：鉛筆または墨で不都合部分に×印をつけている。多くの場合、下の文字が見える。
	全面削除：削除部分が1課の全体に及ぶ。削除方法には「切取り」、「紙貼り」などがある。

『英語2』（中学校用）

課	テキスト	A	B	C	D	E	F	G	全面削除	部分削除	無削除
1. The New School Year		■	■	■	貼	貼	貼	貼	71%	29%	0%
7. The Father of Wireless			■		—	—			0%	43%	57%
8. How the Colonists Went to America			■	■					0%	29%	71%
11. My Diary		×	■	■	貼	貼	貼	貼	86%	14%	0%
12. Admiral Yamamoto and His House		貼	■	■	貼	貼	貼	貼	100%	0%	0%
21. Coconuts		■	■	■		貼	貼	貼	0%	71%	29%
22. Nippon and Its Neighbours		貼	■	■	貼	貼	貼	貼	86%	14%	0%
24. Working All Together			■	■					14%	14%	72%
25. The Story of the Clocks-- I			■						0%	14%	86%
27. The Glider		貼	■	■	貼	貼	貼	貼	86%	14%	0%
III. Vocabulary			■			貼	貼	貼	0%	43%	57%
平均40%									26%	34%	

『英語2』（高等女学校用）

課	テキスト	A	B	全面削除	部分削除	無削除
14. Tokyo		■	—	0%	100%	0%
15. The World		■		0%	50%	50%
19. The Two Goats			■	0%	50%	50%
23. The South Seas		×	■	50%	50%	0%
平均13%				62%	25%	

『英語1』（中学校用）

課	テキスト	A	課	テキスト	A
The Preparatory Course		××	23. Past and Present		—
2. "That is..."		■	27. How We Spent a Week?		×
4. "What is...?"		■	28. Good-Bye, Dear Birds, Good-bye!		■
8. "Look at..."		×	32. Be a Good Japanese Boy!		■
9. "We can..."		■	III. Romaji-Tuzuri		■
12. "They are..."		×	IV. New Words		■
17. Aeroplanes		×			

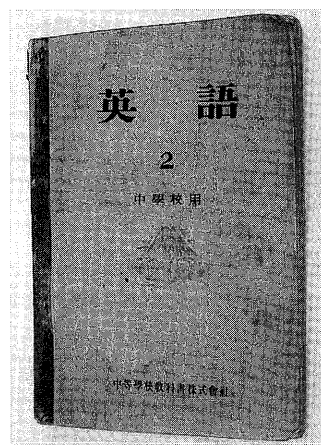


図5 準国定の『英語』（1944）

4. 削除内容

削除の具体的な内容は、末尾の【資料1・2】を参照されたい。

4-1. 中学校用『英語2』の考察

「軍国主義的」な内容を多く含む課では、削除の分量が多い。学校での軍事教練の描写と挿絵などを含む第1課では、全7冊のうち5冊(71%)が全面削除されている。また、防空訓練および戦闘場面の挿絵などを含む第11課では6冊(86%)が全面削除、山本五十六元帥の逸話を取り上げた第12課では7冊すべてが全面削除されている。日本と「大東亜共栄圏」を題材にした第22課、および落下傘部隊を描いた第27課ではともに6冊(86%)が全面削除されている。

一方、同一題材に対して削除判断の異なる場合も多々見られる。たとえば第7課の「われらは二週間で飛行場を造るのに成功した。」という記述は、3冊(43%)が削除、残りの4冊(57%)は無削除である。

第8課の「時々、父は僕らに南洋の話をしてくれます。」の部分削除したのは2冊のみである。興味深いことに、“I made a picture of warships.”の部分削除したのは1冊だけで、残り6冊では“warships”(軍艦)という単語が温存されている。

第24課は力を合わせることの大切さを説く寓話であるが、なぜかB本だけが全面削除である。C本ではExerciseにある“My father, who had just come home from the South, said, “How happy I am to see you all very well!””の1文のみが削除されている。おそらく“the South”(南方)が「大東亜共栄圏」を暗示するために、過敏なまでに反応した結果であろう。この語句以外には軍事的な要素も見当たらず、残り5冊では無削除のままである。このように、B本は最も神経質な削除判断をしている。第25課でもExerciseの一文、“It takes an aeroplane two hours to fly from Tokyo to Osaka.”を部分削除している。当課での削除はこのB本のみである。

4-2. 高等女学校用『英語2』の考察

2冊のうち、全面削除はB本の「大東亜共栄圏」の風物を取り上げた第23課のみである。A本では、この課の最終ページだけが残されている。次の課への影響を防ぐためであろう。

第14課では“Greater East Asia”(大東亜)の語句がA本で削除され、“the Meiji Shrine and the Yasukuni Shrine”(明治神宮と靖国神社)の語句がB本で削除されている。第15課では、“Our country, Nippon, is in Asia, and is the strongest in the world.”の下線部、“Manchoukuo”(満州国)、“Our language will be used more and more in the Greater East Asia”の3箇所がA本で削除されているが、B本では無削除である。第19課では、B本で「昭南」(日本統治下

のシンガポールの呼称)が鉛筆で「大阪」に修正されているが、A本では無削除である。

以上の考察のように、同一箇所でも削除判断はまちまちである。このことは、江利川(1999: 5)が指摘したように、「英語教科書の場合は『墨ぬり』が上からの統一かつ詳細な指令に基づいての実施を徹底されたのではなく、1945年9月20日の文部省通牒などを一般的な指針としながら、「現場教師の判断と裁量で、混乱のうちに、かなりの学校で実施された」とする結論を再確認させるものである。

5. おわりに

「墨ぬり」教科書は、英語科教育における題材論の重要性を再認識させてくれる。学校の教科目としての英語科教育は、単なる技能教科ではなく、「人格の完成」に資する人間教育でなければならない。しかし今日、日本では「実践的コミュニケーション能力」や「英語が使える日本人」が国策とされる下で、こうした「人間教育」としての側面を軽視する傾向が強い。それゆえに英語科教員は、どのような人間を形成するかに関わる題材内容の側面に対して意識的な注意を払う必要があるだろう。

墨ぬり指令の中心人物の一人だった久保田藤麿・文部省青少年教育課長(当時)によれば、「墨ぬり」教科書の目的は「例の機密書類の焼却と似通ったところがあった。つまり、日本へ進駐してくる米軍の目から、教科書のなかの軍国主義的なところを事前に隠してしまおうというのがねらい」だったという(読売新聞戦後史班編1982: 25)。

「墨ぬり」という証拠隠滅は、真摯な自己批判ではない。過去の誤りに対する自己批判の欠如は、新たな誤りに道を開きかねない。「墨ぬり」英語教科書は、英語教育関係者が再び戦後民主教育の原点に立ち返り、教育基本法が定めた「人格の完成をめざし、平和な国家及び社会の形成者」を育てるための教育を実践すべきことを静かに語りかけているのではないだろうか。

参考文献

- 磯辺ゆかり・江利川春雄(2005)「アジア太平洋戦争期の英語教科書」『紀州経済史文化史研究所紀要』第25号、和歌山大学紀州経済史文化史研究所 pp. 1-14
- 江利川春雄(1994a)「戦時下の準国定英語教科書とその墨ぬり版(1)」『鈴鹿工業高等専門学校紀要』第27巻第1号 pp.123-141
- (1994b)「敗戦占領下の暫定英語教科書」『日本英語教育史研究』第9号 pp.107-155
- (1994c)「戦時下の準国定英語教科書とその墨ぬり版(2)」『鈴鹿工業高等専門学校紀要』第27巻第2号 pp.65-83
- (1999)「敗戦直後の『墨ぬり』英語教科書」『中部地区英語教育学会紀要』第28号 pp. 1-8

菅道子 (2002) 「終戦直後における音楽教科書の『墨塗り』措置—『儀式唱歌』の取扱いを中心に」『和歌山大学教育学部紀要・教育科学』52集、p.79-96

黒澤一晃 (1999) 「戦時下の英語教育：神戸での一体験」『日本英語教育史研究』第14号 pp.15-39

中等学校教科書株式会社編 (1944) 『英語編纂趣意書<中学校第1・2学年用>』中等学校教科書株式会社

—— (1944) 『英語編纂趣意書<高等女学校第1・2学年用>』中等学校教科書株式会社

長崎栄三 (2000) 「中等数学第一類・第二類の墨塗りと暫定教科書—終戦直後の中学校数学教育」『東京学芸大学 学芸大数学教育研究』11号 pp.69-82

中村紀久二編 (1985) 『墨塗り教科書 解題・削除指示資料集』芳文閣出版部

星山三郎 (1983) 「難産短命だった戦時日本的英語教科書編集回顧録」語学教育研究所編『ことばと教育と時代』開拓社 pp.275-286

増田史郎亮 (1988) 「墨ぬり教科書前後」『長崎大学教育学部教育科学研究報告』35号 pp.1-10

松尾眞志 (2000) 和歌山英語教育研究会『WASET』7号 pp.3-4

三石初雄 (1990) 「戦時理科教科書の戦後直後における削除修正過程」『日本理科教育学会研究紀要』第31巻 pp.1-10

吉田裕久 (2001) 『戦後初期国語教科書史研究』風間書房

読売新聞戦後史班編 (1982) 『昭和戦後史 教育のあゆみ』読売新聞社

ワンダリック H. J. 著・土持ゲーリー法一監訳 (1998) 『占領下日本の教科書改革』玉川大学出版部

【資料1】『英語2』（中学校用）の削除内容一覧

【凡例】

- 一、修正程度：◎は文に及ぶ大きな修正、○は語句レベルの小さな修正、△はEXERCISEのみの修正、×は削除・訂正なし。下線部は部分修正箇所。「暫定版」とは1946年度だけ使用された『英語』の改訂版。
- 一、修正理由：削除修正の理由を内容上、「軍事主義」「植民地主義」「不明」の3種類に分類し(←)で示した。
- 一、題材内容：タイトルの後の〔 〕に入れた部分で、『英語編纂趣意書（中学校第一・二学年用）』（1944）に記載されたもの。
- 一、『英語1』（中学校用）の削除内容については、江利川（1994c）参照。

課と内容	削除・修正部分	暫定版
目次〔題材内容〕	C本 ：○墨ぬり1箇所。L. 1. The New School Year	○
1. The New School Year〔新学年と中学生の覚悟〕	A本 ：◎墨ぬり7箇所(←軍国主義) ① Our principal told us that we should think of our soldiers and sailors at the front and do our best to fulfil our duty as middle-school boys. ②塗り潰し：生徒が整列行進する挿絵 ③全文削除：We have military training three times a week. Captain Osawa is to drill us this year. He came home from the front only a few months ago. My parents always say that all Japanese boys are to become brave and strong soldiers in future. So I will try to do my best to train myself through military training. ④削除：(EXERCISE) (A) 4. Who is your class teacher this year? (←削除理由不明) ⑤下線部削除：7. <u>How many times a week do you have military training?</u> ⑥削除：(B) 4. We should do our best to train our minds and bodies. ⑦削除：(C) 3. 僕の兄はつい二、三日前に戦地から帰って来た。 B本、C本、G本 ：◎切り取り：全面削除 D本 ：◎紙貼り：全面削除（*剥がされた痕跡あり） E本 ：◎貼合せ（紙貼りと封印）：全面削除 F本 ：◎紙貼りの上に墨ぬり6箇所 ① Our principal told us that we should think of our soldiers and sailors at the front and do our best ② We have military training three times a week. Captain Osawa is to drill us this year. He came home from the front only a few months ago. My parents always say that all Japanese boys are to become brave and strong soldiers in future. So I will try to do my best to train myself through military training. ③ military ④ training ⑤ captain ⑥ (EXERCISE) (C) 3. 僕の兄はつい二、三日前に戦地から帰って来た。	◎ 6箇所 削除・修正
7. The Father of Wireless〔マルコーニの無線の発明〕	B本、D本、E本 ：△墨塗り1箇所：Ex. (C) 5. 「われらは二週間で飛行場を造るのに成功した。」(←軍国主義) A本、C本、F本、G本 ：×無削除	×

8. How the Colonists Went to America ['Mayflower'号とPilgrim Fathers]	<p>B本：△墨塗り1箇所：Ex.(C) 4. 「時々、父は僕らに<u>南洋の話</u>をしてくれます。」(←植民地主義)</p> <p>C本：△墨塗り2箇所：Ex.(B)1. I made a picture of warships. (C) 4. 「時々、父は僕らに<u>南洋の話</u>をしてくれます。」(←植民地主義)</p> <p>A本、D本、E本、F本、G本：×無削除</p>	◎
<p>11. My Diary〔わが国の中学生の日常生活の一斑を日記文としたもの〕</p> <p>*『英語編纂趣意書』には「戦時生活を取り入れてあるので、vocabularyも或る程度その色彩を帯びている」とある。</p>	<p>A本：◎墨ぬり6箇所：下線部：I came home with Yamada, <u>talking about the activities of German submarines in the Atlantic.</u> 全文：In the afternoon we had anti-air-raid exercises at our school. (←軍国主義)</p> <p>Jul. 3rd, Wed. Fine. In the morning I received a picture postcard from my brother at the front./On my way home from school I met (以上墨ぬり、以下は1ページ墨×消し1箇所) a troop soldiers marching along the streets. I wished to be one of such brave soldiers./ In the evening I learned, through the radio, that yesterday our navy air-forces sank or damaged in the South Pacific, six enemy transports, three cruisers, and one destroyer, and shot down over thirty planes. (ここでページが終わり、続く次の文は再び墨ぬり)</p> <p>墨ぬり：I went to bed at a quarter past nine, full of gratitude to our soldiers, sailors, and airmen.</p> <p>*戦闘場面の挿絵は墨ぬり</p> <p>墨ぬり：(EXERCISE) (B)3. わが海鷲は敵機三十五以上を撃墜した。 紙貼り1箇所。防空訓練の挿絵に。</p> <p>B本、C本、G本：◎切り取り：全面削除 D本：◎紙貼り：全面削除 E本、F本：◎貼合せ (L.11、12は一括して紙貼りと封印)：全面削除</p>	◎
12. Admiral Yamamoto and His House [故山本元帥の逸話]	<p>A本：◎糊付け1、紙貼り1箇所：全面削除。この課のp.40とp.41は袋とじのように糊付けされ、中が見えなくされている。p.42は全面に紙が貼られている。(←軍国主義)</p> <p>B本、C本、G本：◎切り取り：全面削除 D本：◎紙貼り：全面削除 E本、F本：◎貼合せ (L.11、12は一括して紙貼りと封印)：全面削除</p>	◎
21. Coconuts (椰子の実の話)	<p>A本：△墨ぬり1箇所。Ex.(C) 2 かれは戦地の兄のことを考へているやうに思はれる。(←軍国主義)</p> <p>B本：△墨ぬり1箇所。Ex.(C) 2 かれは戦地の兄のことを考へているやうに思はれる。</p> <p>C本：△墨ぬり2箇所。Ex.(B) 1. Bananas grow in Taiwan () it is warm all the year round. (←植民地主義) (C) 2 かれは戦地の兄のことを考へているやうに思はれる。</p> <p>E本：△棒引きの上に紙貼り。Ex.(C) 2 かれは戦地の兄のことを考へているやうに思はれる。</p> <p>F本：△紙貼り。Ex.(C) 2 かれは戦地の兄のことを考へているやうに思はれる。 D本、G本：無削除</p>	◎
22. Nippon and Its Neighbours [日本と共栄圏]	<p>A本：◎紙貼り1、糊付け1箇所。全面削除(この課の最初のページに紙が貼られ、内部が糊付けされている)。(←軍国主義)</p> <p>B本、C本：◎切り取り：全面削除。最終ページのExerciseはすべて墨ぬり(次の課の第1ページを切り取らないため)。</p> <p>D本：◎紙貼り：全面削除 E本、F本：◎貼合せ(紙貼りと封印)：全面削除 G本：◎切り取り (p.79-82)。最終ページのExerciseは残存。</p>	◎
24. Working All Together [協力の必要を説く寓話]	<p>B本：◎切り取り：全面削除 C本：△墨塗り1箇所。Ex.(A) 5. My father, who had just come home from the South, said, "How happy I am to see you all very well!" (←軍国主義)</p> <p>A本、D本、E本、F本、G本：無削除</p>	×
25. The Story of the Clocks--I [古代の時計]	<p>B本：△墨塗り1箇所。Ex.(A) 2. It takes an aeroplane two hours to fly from Tokyo to Osaka. (←軍国主義 *当時の飛行機=軍用機)</p> <p>A本、C本、D本、E本、F本、G本：無削除</p>	×

27. The Glider [グライダーの話；空へのあこがれ] *「独軍の落下傘部隊に関連して、わが国の空の神兵に就いても注意を喚起する」	A本 ：◎紙貼り1、糊付け1箇所。全面削除（この課の最初のページに紙が貼られ、内部が糊付けされている）。（←軍国主義） B本、C本 ：◎切り取り：全面削除。最終ページのExerciseはすべて墨ぬり（次の課の第1ページを切り取らないため）。 D本 ：◎紙貼り：全面削除（剥がされた痕跡あり） E本、F本 ：◎貼合せ（紙貼りと封印）：全面削除 G本 ：◎切り取り（pp.101-104）。最終ページのExerciseは残存。	◎
APPENDIX III. Vocabulary	B本 ：○棒引き9箇所（9語）。admiral 海軍大将、提督 <i>fight against...</i> を敵として戦う <i>air-forces</i> 空軍 <i>anti-air-raid</i> 防空の <i>attack</i> 攻撃する <i>battle</i> 戦闘 <i>troop</i> 隊、部隊 <i>victory</i> 勝利「大東亜戦争」（←軍国主義）*ただしGreater East Asia 大東亜、Manchoukuo 満州国、parachute-trooper 落下傘部隊、submarine 潜水艦などは無削除。 E本 ：○墨ぬりの上に紙貼り19箇所（19語） ○棒引き23箇所（23語） ○墨ぬり2箇所（2語） （*は削除されたLESSONに新出） *admiral 海軍大将、提督 *air-forces 空軍 *anti-air-raid 防空の <i>army</i> （陸軍）軍隊 *at the front 前線の <i>attack</i> 攻撃する *balloon 気球 *base 根拠地、基地 <i>battle</i> 戦闘 *captain（陸軍）大尉 <i>capture</i> 占領する、捕らえる <i>carrier-pigeon</i> 伝書鳩 *command 指揮 <i>conquer</i> 征服する *cruiser 巡洋艦 *destroyer 駆逐艦 *drill 訓練する、教練を教へる *enemy 敵 *exercise 教練、演習 <i>fight a battle</i> 闘ふ <i>fight against</i> 敵として闘ふ *front 前線；戦地、第一線 *general（陸軍）大将、将軍 *glider-pilot 滑空機操縦士 *Greater East Asia 大東亜 <i>invade</i> 侵入する *machine 機会、飛行機 *march 行軍する、進軍する *military 軍事の *navy 海軍 <i>oppose</i> 反撃する *parachute-trooper 落下傘部隊 *plane=aeroplane <i>rush</i> 突進する <i>submarine</i> 潜水艦 *training 訓練 *transport 輸送船 *troop 隊、部隊 <i>trumpet</i> らっぱ *victory 勝利 <i>war</i> [卷一] <i>at war with</i> と戦争をして *War of the Greater East Asia 大東亜戦争 <i>win a prize</i> 賞を得る *win a victory 勝利を得る（←軍国主義） F本 ：○棒引き25箇所（25語） （*は削除されたLESSONに新出） *admiral 海軍大将、提督 *air-forces 空軍 <i>airmen</i> < <i>airman</i> *anti-air-raid 防空の <i>army</i> （陸軍）軍隊 <i>attack</i> 攻撃する *balloon 気球 *base 根拠地、基地 <i>battle</i> 戦闘 *captain（陸軍）大尉 <i>capture</i> 占領する、捕らえる <i>carrier-pigeon</i> 伝書鳩 *command 指揮 <i>conquer</i> 征服する *cruiser 巡洋艦 *destroyer 駆逐艦 *drill 訓練する、教練を教へる *enemy 敵 *exercise 教練、演習 <i>fight a battle</i> 闘ふ <i>fight against</i> 敵として闘ふ *front 前線；戦地、第一線 *general（陸軍）大将、将軍 *glider-pilot 滑空機操縦士 *Greater East Asia 大東亜（←軍国主義） A本、C本、D本、G本 ：削除なし	○

【資料2】『英語2』（高等女学校用）の削除内容一覧

課と内容	削除・修正部分	暫定版
14. Tokyo 〔大東亜の中心としての東京（附米英の首都）〕	A本 ：○墨ぬり1箇所 （下線部削除）As Tokyo is the center of learning in the Greater East Asia, a great many foreign students come here to study every year. （←植民地主義） *皇居および靖国神社の写真はそのまま。 B本 ：○棒引き1箇所 the Meiji Shrine and the Yasukuni Shrine.	◎
15. The World 〔世界の国々〕	A本 ：◎墨ぬり3箇所 下線部削除：①Our country, Nippon, is in Asia, <u>and is the strongest in the world.</u> ②Manchoukuo and China are our neighbours. ③Our language will be used more and more in the Greater East Asia. （←植民地主義、軍国主義） B本 ：無削除	◎
19. The Two Goats 〔寓話（互譲の精神）〕	A本 ：無削除 B本 ：△鉛筆ぬり。昭南→大阪 *昭南とは占領下のシンガポールの呼称	△
23. The South Seas 〔共栄圏内の風物（南洋に就いて）〕	A本 ：◎切り取り：最後の1ページ以外削除。例えば次のような文があった：“This is Syonan. It was formerly called Singapore and belonged to England. The English built a very strong fortress there and made this place one of their bases to rule over the Seven Seas. But it was captured by our brave soldiers and sailors in the 17th year of Syowa, and now it belongs to Nippon.” All the children clapped their hands. （←植民地主義、軍国主義） B本 ：◎貼合せ（墨ぬりと貼合せ）：全面削除	◎